



現状と課題

《令和2年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果》  
 4年生・・・国語「書く能力」以外全て県平均を下回る。特に国語の「話す・聞く能力」「読む能力」については8ポイント以上、算数の「数と計算」の領域では、7ポイント下回った。  
 5年生・・・国語「書く能力」と算数「数量関係」以外全て県平均を下回る。特に国語の「話す・聞く能力」については5ポイント近く、算数の「図形」の領域では7ポイント以上下回った。  
 《令和3年度 学校課題研修の成果と課題》  
 [成果]計算力が向上 [課題]読解力が低い。  
 →読解力や自分の考えをもつための思考力が必要。

現状と課題をもとにした仮説

《学校研修課題》  
 ◎国語科 ◎算数科 + 読書  
 →計算力を向上しつつ、読解力や表現力を養えるだろう。  
 ※学習方略・非認知能力が上げれば学力も伸びるだろう。

事業実施報告

【通年】少人数指導  
 【通年】昼休み指導  
 【夏季休業中】県学調分析  
 令和3年  
 11月10日 スクラム授業公開  
 令和4年  
 10月26日 スクラム授業公開

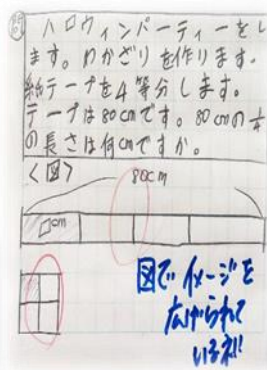
仮説をもとにした取組内容

【学習方略に向けた働きかけ】

- ①プランニング方略
  - ・自分で計画を立てる力の育成
  - ・計画に沿って行動する力の育成
- ②作業方略
  - ・自分で考え、自分で調べる力の育成
  - ・大切なところは自分でノートにまとめる力の育成
- ③認知的方略
  - ・内容を頭に思い浮かべながら考える力の育成
  - ・分からないところを自分で聞く力の育成



机のわきに辞書



図で表現してから立式



少人数での授業

【授業内の取組】

- ①学習規律の徹底
- ②国語科におけるTTによる指導
- ③算数科における習熟度別学習やTTによる指導
- ④ノート指導

TTによる指導



【家庭と連携した取組】

- ①自主学習
- ②ナンプレ

ナンプレポスト (職員室前)



自主学習の表彰



【授業外の取組】

- ①国語タイム
- ②算数タイム
- ③昼休みチャレンジ
- ④傾聴作文



コバチャレ (コバトンチャレンジ・補習)

【読書の取組】

- ①読書タイム
- ②すきま読書
- ③読書祭り
- ④親子読書
- ⑤50冊読破



図書館de読書





成果

【令和5年度 各学年の学習方略、非認知能力の結果】  
 4年生－認知的方略、自己効力感以外県平均を上回る。  
 5年生－全て県平均を上回る。  
 6年生－向社会性以外県平均を上回る。

小5	主体的・対話的で深い学びの実施	R5結果 学習方略					非認知能力	
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	認知的方略	努力調整方略	自己効力感	向社会性
学校平均	4	3.7	3.7	3.6	4.1	4.1	3.7	3.2
県平均	3.8	3.5	3.6	3.4	3.9	3.9	3.6	3.1

【学力レベルの変化】

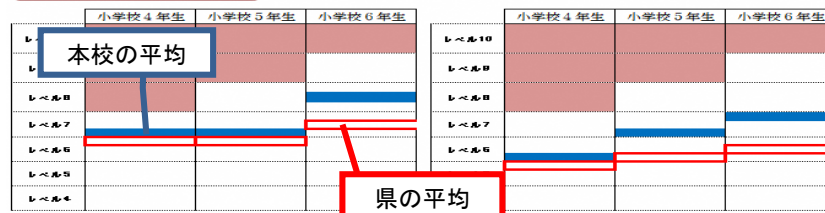
5年生－国語、算数共に4年生の時は県平均と同レベルだったのが、上回ることができた。特に算数は4段階の伸びが見られ、県平均を大きく上回った。  
 6年生－4年生の時から県平均を上回っていたが、国語、算数共に年々その差を広げることができた。特に算数は最終的に4段階上回ることができた。

国語

算数

今までの学力の変化

今までの学力の変化



【学力の伸びの平均と児童の割合】

学力の伸び－県平均よりも学力の伸びが大きい。  
 学力を伸ばした児童の割合－平均して8割の児童がレベルを上げた。

【学力の伸びの平均】

	R5年度 国語	
	現小5	現小6
E   小学校	4	4
埼玉県	3	2

	R5年度 算数	
	現小5	現小6
E   小学校	4	2
埼玉県	2	1

【学力を伸ばした児童生徒の割合】

	R5年度 国語	
	現小5	現小6
E   小学校	85.4	80.4
埼玉県	80.2	77.7

	R5年度 算数	
	現小5	現小6
E   小学校	89.6	68.6
埼玉県	67	57.7

【国語：読むこと 算数：思考・判断・表現の平均正答率】

平均正答率が低い「読むこと」と「思考・判断・表現」を問う問題で、県の平均正答率を大きく上回ることができた。

	E   小学校	県平均
4年(国語)	59.8	57.5
(算数)	59.3	52.7
5年(国語)	54.5	51
(算数)	71.3	59.4
6年(国語)	68.5	60.4
(算数)	61.8	47.4
平均	62.5	54.7

国語や算数の書く活動や、読書活動、一文要約など、スクラムの様々な取組によって思考力や読解力の大幅な向上につなげられた。

課題及び今後に向けて

○スクラム対象児童や学年全体の学力を上げることはできたが、スクラム対象児童の学力の伸びは、学年平均の伸びほどではなかった。家庭環境の要因等で、学習習慣・学力の定着が難しい児童もいる。児童への効果的な支援の仕方の工夫が必要。

